

京都SDGsパートナー登録証



京都大学地球環境学堂・学舎 浅利美鈴研究室は、

**SDGs、CO₂ゼロに
取り組むことを宣言します。**

●2030年のSDGs達成に向けた目指す姿と運営・事業方針●

国外では、アジア・太平洋州やアフリカ諸国等の廃棄物対策、環境意識・行動変容の研究を通して、適正な環境管理の普及促進の要となる成果を出す。国内では、京北地域や山科区等で、地域の持続可能性を探究した産官学民連携のSDGs教育モデルの開発を目指す。大学内では、サステイナブルキャンパスモデルの構築を目指す。

●SDGsに関する重点的な取組●

ごみ管理・3R、持続的なプラスチック利用、災害廃棄物管理など、資源循環について実践的に研究している。研究室内では、分別・リサイクル、コンポストやリユースコーナー運営等、各種団体のモデルとなるべく徹底した環境配慮行動を日々実践している。これらの研究・実践により、国内外の資源循環システム構築に貢献する。

産官学民が連携し、地域における持続可能性・SDGsの達成に向けて考え、行動、発信するネットワークの中核を担っている。地域の持続可能性・SDGsをテーマにした教育を核としたプログラムを開発し、国内外で導入されることを目指す。

責任ある生産と消費の促進に関する研究を、製造業や小売業、消費者といった主要なステークホルダーと連携し実施している。過剰包装や食品ロスの削減策の提案に向け、小売店での包装調査や、家庭から排出されるごみの調査でデータを蓄積・分析し、サーキュラーエコノミー構築に貢献する。

●文化や地域活動に関する重点的な取組●

研究室では、京都市のごみ減量施策の普及促進に協力し、議論や勉強会、教育・研究活動等に積極的に参画している。また、人口減少等の課題を抱える中山間地域の持続可能な地域づくりを支援するため、京都市京北地域のSDGs拠点・京都里山SDGsラボ「ことす」の活動を主体となって推進している。

2022年10月31日
(登録番号:00134)

京都大学地球環境学堂・
学舎 浅利美鈴研究室
浅利美鈴



京都超SDGs
コンソーシアム

京都市長
門川 大作



きょうとSDGs
ネットワーク